

## 令和8年度 第1回第四次千曲市観光振興計画策定委員会会議録

日 時 令和8年7月15日（水）午後3時30分

場 所 戸倉創造館 大ホール

### 1 開 会

#### 2 市長あいさつ

本日は千曲市観光振興計画策定委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

また先ほどは講演会に出席いただきまして大変お疲れ様でした。

委員の皆様にはそれぞれの立場で千曲市の観光行政にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

さて早いもので、第三次千曲市観光振興計画が策定されてから4年が経過いたしました。

新たな計画となる第四次千曲市観光振興計画を策定する年となりました。

振り返りますと第三次計画の策定を始めた令和2年度は、新型コロナウイルスが猛威を振るっている最中でありましたが、委員の皆様には市役所に足をお運びいただくなかで活発なご意見を賜り、令和3年度内に計画を策定することができました。

第三次計画は、ウィズコロナ、アフターコロナ時代を見据えた持続可能な観光振興と市民、観光事業者、関係団体、行政が協働する観光地域づくりを基本方針として、千曲市の観光資源や地域ブランドを磨き上げ、発展させることを目標としてまいりました。

委員の皆様におかれましては、第四次千曲市観光振興計画の策定に向けて、先ほどの講演会のお話し、また、パネルディスカッションの内容なども踏まえてぜひ活発なご議論をいただきたいと存じます。

結びであります、皆様方のご健勝をご祈念申し上げまして簡単でございますが、開会のご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

#### 3 策定委員会委員及び事務局自己紹介

#### 4 正副委員長の選出について

事務局：事務局から正副委員長をご提案させていただきますがよろしいでしょうか。

～異議なし～

事務局：委員長には、千曲市まちづくりアドバイザーであります山田桂一郎様に、副委員長には戸倉上山田温泉旅館組合連合会代表のタイラーリンチ様をお願いしたいと考えております。

～異議なし～

#### 5 会議事項

##### （1）第四次千曲市観光振興計画策定について

事務局：説明

【質疑】

委 員：今週の金曜日から稲荷山地区では祇園祭という伝統のお祭りが稲荷山地区の重伝建の街の中で行われ、大獅子と神輿が練り歩く。ぜひ多くの観光客の方に見ていただきたい。

市でも、重伝建の中の鍵の手や旧米精跡地を拠点に計画している。飲食スペースや職員が常駐すれば賑やかになるのではないかな。

委員長：地域資源の活用がまだできていないということのご意見として受け賜ります。

委 員：先ほどのパネルディスカッションでの市長のお話の中にもありました地域そして千曲市に対しての誇りと愛着を持ってもらいたいという部分がこの計画策定にあたり一番の大きな課題だと思う。

愛着、誇りということ考えたことがない市民の方や、また、昔は持っていたが現在では無くなったという方もいらっしゃると思っている。持てなくなった方が観光振興だけでなく、市の活気がなくなる原因にもなっている。

愛着・誇りを持つという目標の前に、その気持ちを持っていただけるような仕掛け、工夫が大事かなと思うが、その辺はどう考えているか。

事務局：愛着を持ってくださいと言ってもなかなか難しい問題と捉えております。

地域への愛着を持っていただく仕掛け作りというところが非常に大事であり、この計画の中でも愛着に繋がるような仕掛け作りを取り込めればと考えております。

委 員：住んでよし、訪れてよしの地域づくりということだが、住んでよし、訪れてよしは相反するところもあると思うが、整合性はどのようにやって取っていくのか。

また、他部署でも策定しているまちづくりの計画や委員会との擦り合わせをどのように行っていくのか。

事務局：当市のアドバイザーである山田先生の講演の中にもあったように、地元の人が良いと言っている所は外に向けても良い所と言えることが大事ではないかな。

それが、その地域の誇りになり、また訪れたいくなる、訪れてよしという地域づくりへと繋がるのではないかと捉えております。

市の整合、すり合わせに関しては、それぞれの個別の制度の中で検討していくべきところではないかと捉えております。

委員長：国も住んでよし、訪れてよしの訪れてよしを先にしてないのが一番いいところで、訪れてという方が成功すると看板を作りなさいなどの話になってくる。住む方が先に来ているので、計画でもそこを外さないように皆さんのお考えをまとめていただければ良い方向に向かうとは思っている。

委 員：地域資源の活用やコミュニティに着目して研究をしているが、これまでの第三次観光振興計画を見ると、地元の人たちが観光についてどう思っているのかに対するページがほとんどない。10 ページに少し調査結果があるようだが、観光振興計画の目標の中の目指す方向性として、愛着のある誇りのあるという文言を入れるのはとても良いことだと思う。実際の計画の中で目標として進めていくのが良いのではないかな。

委 員：田毎の月で有名な姨捨の棚田に住んでおり、景色も美しく食べ物もおいしく本当に住

んでよかったなと思っている。

ぜひ、千曲市の姨捨の棚田それから月見の場所、これを広めていきたいと思う。

委員長：地域資源の活かし方などは多分この計画の後の話になってくると思いますが、地域の資源に愛着を持って行動してることを計画にも落とし込んでとのお話だということで受け取りたいと思います。

## （２）第三次千曲市観光振興計画の数値目標と現状について

事務局：説明

### 【質疑】

委員：数値計画・目標については観光振興計画の肝になってくると思うが、達成状況や推移状況の算出根拠をもう一度見直した方がいいのではないかな。

観光消費額は県の数値を使っているようだが、観光入込客数は市で独自で集計している数値であるため、取り方がバラバラとなっている。統一化させた方が良い。

交流人口という表現は、来訪客数ではないのか確認したい。

今日の講演会の中でもあった観光による波及効果の指標などを計画の中にどう盛り込んでいくか、どのタイミングで協議していくか考えないといけない。

事務局：観光消費額などの数値の統一は、第四次計画に向けて大きなテーマだと認識しており、一番の基礎となるも数値設定を検討しながら進めていきたいと考えている。

入込客数や交流人口は、第三次計画ではスポーツ施設や文化施設、イベントなどに参加された方も交流人口として集計している。来訪客数の捉え方、考え方などご相談をさせていただきながら進めていきたいと思っている。

委員：数値設定の内容を協議する場合は、策定委員会では無理だと思う。

ある程度専門の方や有識者の方がいないと、標準の基準で作れないと思われるが、そういう場を設けられる予定はあるか。

事務局：何を指標としていくかなどは、個別にご相談をさせていただきたいと思っている。観光課では知見がないため、信州千曲観光局、長野県観光機構等に相談させていただきながら進めて行きたいと考えている。

委員長：数字の設定では、精度を上げていく必要もあるため、長野県が宿泊税の分配でモバイル空間統計を使っている。人流データとして市の方に情報が来ているか。

事務局：人流データの数は県から示されていない。

委員長：宿泊したところだけでなく、日帰りで行った方もデータ化し県は人流データをうまく使っているなのでデータをいただければ精度は高くなる。交渉してデータ取得に努めていただきたい。

委員：前提として千曲市観光の将来像のキャッチフレーズというのは、どの程度広く使われているのか。

事務局：第三次計画の 58 ページのキャッチフレーズは、計画策定の際に、観光振興を目指すビジョン、指針として決めたもので、広く PR というよりも計画上のビジョンの中の指針というキャッチフレーズで使ってきたものと思われる。

委員：市長の観光施策に対する考えを確認いただきたい。

事務局：市長の考えは確認してみたいと思います。

委員：ビジョンに経済政策が含まれるなら、新計画のキャッチフレーズに大きく関わります。地域に暮らす人の思いを汲む『住んでよし』を明確にし、住民が地域でどう経済効果を生むかを強く盛り込むべきです。市長の意向もそこにあると受け止めており、住民起点で経済を回す視点が今の当市には必要ではないか。

委員：ビジョンは会社でいう社是、目指す方向を示す羅針盤であり極めて重要です。参考までに、日本観光振興協会が今年掲げた中長期ビジョン『観光で生きるという選択』をご紹介します。これは、基幹産業として観光が目指す姿を全員がベクトルを合わせられる非常に大きなビジョンです。当市においても、こうした先進事例を参考にしながら、地域の事業者や関係団体、そして市民の皆さんに至るまで、全員が『腹落ち』し、心から納得できるようなビジョンを掲げることができれば素晴らしいと感じています。

委員長：先ほど講演会で地域で一番大事なものなんですかと投げかけしましたが、先日行った気仙沼は震災に遭いながら海と生きるという明確なテーマを持てますし、姫路では俺たちは城と生きるという。

皆さんの場合は「月とあんずと名湯」と生きるかもしれませんけれども先ほどご意見のように一番大切に思っているものを中心に据えて考えると多分将来のことも見えてくるのではないかなと感じる。

副委員長：来訪者の数字を見ると令和7年の数値は外国人が全体の3%ぐらいということは、逆に日本人の国内が97%、その97%の3分の2ぐらいから関東方面。このビジョンではかなり幅広いことを書いてあるのでオールマイティーだが、日本の原風景とか山の景色とか、キャッチフレーズ「いつでも何度も癒されるまち」ということは結構重要なポイントだと思う。

関東方面から来る方々は、地方、田舎の静かな平和的なリラックス的な部分がすごい魅力的なので、それをビジョンの中ではそういう視点から考えると、平和的な言葉を入れたらどうかなと思う。

委員：それぞれのテーマに沿って進めていく役割などはある程度出ているが、その役割のところが観光振興計画に具体的に説明されてきちっと落とし込まれていない。この計画の中に5W1Hみたいな誰がどこで何をどういった形でやっていくかということまで今回の計画には入れ込む予定なのか。

事務局：第四次の計画において、5W1Hまで踏み込めるか、事業の落とし込み、計画の方向など委員会において相談をさせていただきながら進められればと思っている。

委員：観光事業者や観光に携わる皆さんに分かるような教科書になるものだと思うので、位置づけというのを共有できるようにしていただきたい。

委員：千曲市のこれから新しい観光振興計画を立てていくにあたり、地元の方のご意見をどこまで入れ込んで、エビデンスに基づいてその計画を立てているかっていうところも、愛着や誇りに繋がってくる。その部分が少し弱いというのであればそこを少しでも厚みを持たせる、厚みを持たせるためには、みんなで頑張ろうというわけではなくて、何をどこまで誰がやるのかっていうところまで落とし込む、あるいはこの計画の

中に落とし込めないのであれば、定期的にそういったミーティングを持ち情報共有しながら、地域の方とのコンフリクトを少しでも抑えながら地域の方が主体となった観光振興を進めていくことを見据えた計画を立てていけると良い。

委員長：先ほどからいろんなキーワードがでているが、図れる指標がないと達成したかどうかはわからない。しかも、いつまでに、誰がやるかは全ての政策的なところに繋がってくる。

数値設定等は講演でも申し上げたとおり、事務局も意識している部分だと思うので、有識者の方の意見を聞いて次の委員会に出していただければよい。

将来のキャッチフレーズというのは、皆さんが一番大事にしていくものであって、どうメッセージ性を持たせるのかっていうのはちょっと別問題ではとの気もしている。次回にご意見をいただければと思う。

### （３）今後のスケジュールについて

事務局：説明

#### 【質疑】

委員：市民が現状で市に対して愛着とか誇りを含めて、どのくらい想いを持っているかというアンケートは実施されるのか。

事務局：市民の地域愛や誇りもアンケートで諮れば良いと考えております。

6 その他

7 閉会